

経営比較分析表

岩手県 軽米町

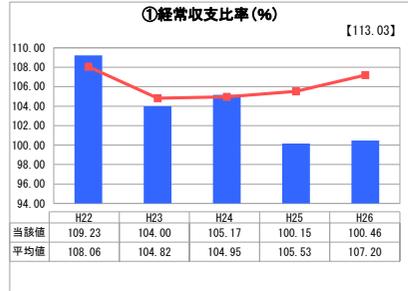
業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A8
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	56.39	72.25	5,010

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,972	245.82	40.57
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
7,130	32.82	217.25

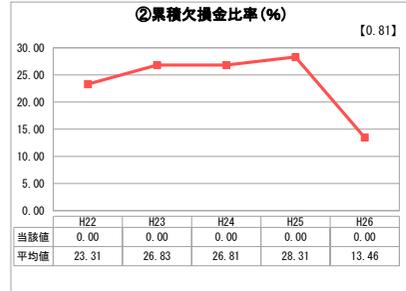
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

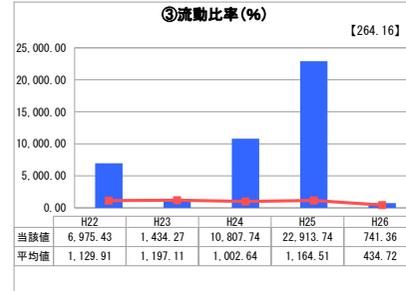
1. 経営の健全性・効率性



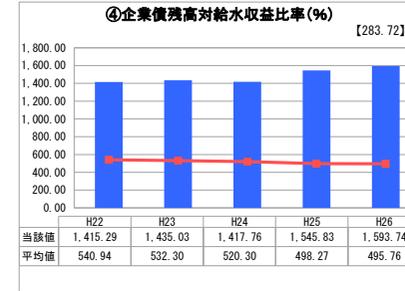
「経常損益」



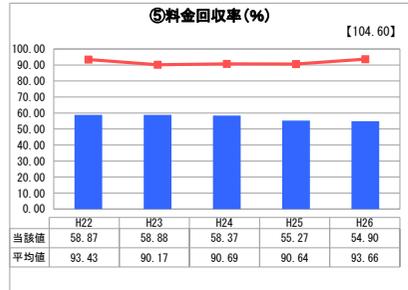
「累積欠損」



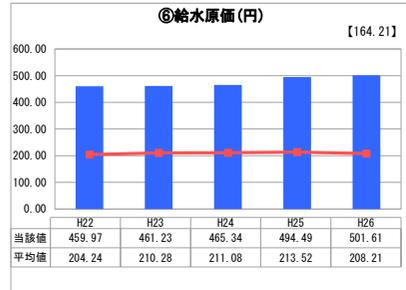
「支払能力」



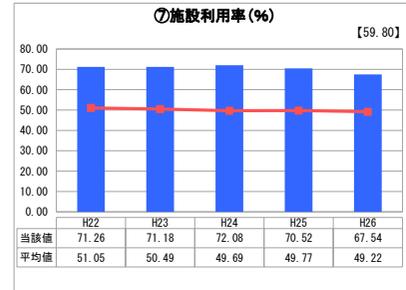
「債務残高」



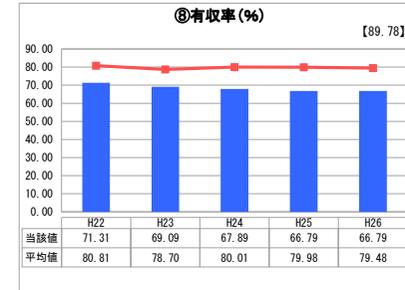
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

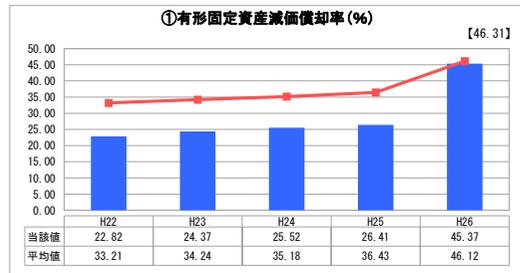


「施設の効率性」

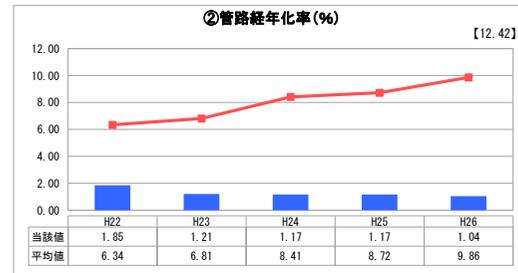


「供給した配水量の効率性」

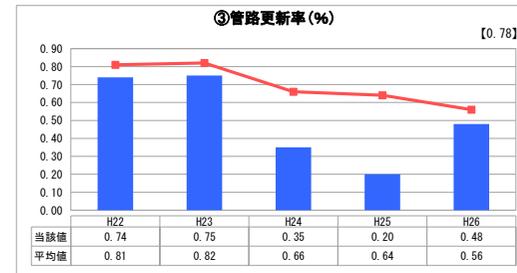
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

当町の水道事業は、起伏に富んだ地形に集落が散在し、給水区域が広範囲であるため、建設改良費が割高となり、その建設のための財源として企業債借入が多額となり、減価償却費や企業債利息、施設管理費用を引上げ、給水原価を押し上げる要因となっています。収入面では、経常収支比率はプラスであるが、水道普及率が低いことで料金収入も少なく、料金回収率は低くなっています。そのため、給水収益以外の収入（一般会計補助金）で賄われている状況となっています。

2. 老朽化の状況について

管路更新率は低いが、比較的建設年度の新しい管路が多いため、法定耐用年数を経過した管路は少ない。そのため、管路経年化率は低くなっています。

全体総括

管路更新を計画的に行い、石綿管を含めた老朽管の更新を行うことと、漏水調査を積極的に行うことで、有収率の向上を図る。収益面においては、給水区域内の未加入世帯の加入促進を行い、給水量の増加と水道普及率の向上を図り、持続可能な事業運営を進めてまいります。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。